

被爆76年

8・6キリスト者平和の祈り 式次第

被爆証言：塩冶 節子（日本基督教団広島古市教会信徒）

司 式：東 歩（日本基督教団廿日市教会牧師）

奏 楽：高橋 孝子（日本基督教団広島流川教会オルガニスト）

賛 美：大城 薫（日本基督教団広島流川教会信徒）



日時：2021年8月6日（金）14時～15時

場所：日本基督教団広島流川教会礼拝堂

「平和の鐘」の点鐘

ヒロシマ、ナガサキの被爆者が負わされた重荷を、主が共に担ってくださり、世界で被爆者が二度と生み出されないようにと祈りつつ鐘をつきます。

点鐘者：原 勝子（被爆者を代表して）

平和の主を信じる群れとして、誠実に歴史と向き合い、平和を実現するために世界の教会と祈りを合わせ、あなたを信じて歩む決意のしるしとして、被爆を今へと伝えるこの鐘をつきます。

点鐘者：鄭澄恵（被爆二世を代表して）

原子爆弾により、そして戦争によって多くの人々の命が奪われました。愛する者を失った全ての人のうえに主の慰めと平安があるように祈りつつ鐘をつきます。

点鐘者：永野 拓也（若者を代表して）

私たちが二度と核兵器の使用を許さず、主が平和な未来を子どもたちに備えてくださることを信じて、この鐘をつきます。

点鐘者：こどもたち

献 水（4 ページ） 牧山員子

前 奏 C. フランク 「カンタービレ」

賛 美 「キリストの平和」（1 節を手話で 2 回） 詞・曲：塩田 泉

1. キリストの平和が わたしたちの心の すみずみまで ゆきわたりますように

1番

キリスト	の	へい	わが	わたしたちの
親指と人さし指で十字を描く	親指「主」を見る（見上げる感じ）	和=手をにぎる	平=平らに開く	自分をさしてから前全体をなでる

こころの	すみずみに	まで	ゆきわたり	ますように
心臓の上を丸く輪を描いて示す	左手で前を囲んだ内側を、右人さし指を、上から下へ動かす	左手のひらに右手指先をあてる動作を2回	手を前にそろえて、ななめ前方に広げる	手を合わせて祈る

とりなしの祈り

司会者 わたしたちは自然と人間、真理の創り主である神に祈ります。

— 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。

司会者 それは、個人の間、または国家の間でなされた、すべての戦争と暴力の犠牲者たちの声だからです。

— 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。

司会者 それは人々が武器と戦争に信頼をおくとき、一番に犠牲者として苦しみ、また苦しむであろうすべての子どもたちの声だからです。

— 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。

司会者 わたしたちは、主がすべての人間の心の中に、平和の知恵と正義の力と喜びを注いでくださるよう、祈ります。

— 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。

司会者 わたしたちはすべての国、またすべての時代において戦争を望まず、常に喜んで平和の道を歩む無数の人々にかわって、話しているからです。

— 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。

司会者 わたしたちがいつも憎しみには愛、不正には正義への全き献身、貧困には自分を分かち合い、戦争には平和をもってこたえることができるよう、英知と勇気をお与えください。

— 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。そして、この世にあなたの終わりのなき平和をお与えください。

1981年ヨハネ・パウロ2世広島「平和アピール」より

聖書 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

マタイによる福音書 5章9節

被爆証言 「母の手に助けられて～被爆体験と私の役目～」

塩治 節子（日本基督教団広島古市教会信徒）

賛美 「平和への祈り」（詩：シャルル・ドルレアン 曲：フランシス・プーランク） 大城 薫
(6ページ)

献金 「在広韓国人・朝鮮人被爆者救援会」のため献げます。
(献金は、礼拝堂入り口の献金箱にお献げください。)

主の祈り

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日も お与えください。
わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。
アーメン

(聖公会／ローマ・カトリック共通)

派遣・祝福 藤井尚人 (日本聖公会広島復活教会司祭)

後 奏 J. S. バッハ「汝に向かいて我は歌わん」BWV452 (6 ページ)
(ソプラノとオルガン)

挨拶 月下美孝(広島市キリスト教会連盟会長・日本基督教団牧師)

報告

塩冶節子さんプロフィール

5歳の時、爆心地より1.6キロメートル段原町(現、南区比治山町)で被爆。
被爆教職員の会に所属し、小学校の修学旅行生に被爆証言をしている。
長く日本基督教団広島南部教会で信仰生活を送り、現在は教団広島古市教会員。

「8・6キリスト者平和の祈り」について

「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」(ヨハネによる福音書20章21節)

「8月6日には、広島のだこかの教会で、キリスト者が、平和を祈るために、集まっている。世の終わりまで。」

これが、「8・6キリスト者平和の祈り」の願いです。

被爆60年の2005年に、広島のカリスト者の有志によって始められました。

1945年8月6日は、わたしたち人間が決して忘れてはならない日です。この日8時15分、アメリカによる原子爆弾の爆撃により、広島では多くの命が奪われ、76年たった今もなお、被爆者は「原爆後障害」などで苦しみ続けています。

その経験から、「核と人類は共存できない」ことを実感し、「ノーモア・ヒロシマ」、「過ちは繰返しませぬから」と誓い、平和の使徒としてこの世界に派遣されているキリスト者の使命を、強く心に刻む日としなければなりません。

「ヒロシマを考えることは、平和に対して責任をになうことです。」

(To remember Hiroshima is to commit oneself for peace.)(ヨハネ・パウロ二世)

「献水」について

1945年8月6日午前8時15分、アメリカ軍の原子爆弾の炸裂により、爆心地付近の地上の温度は、3000度～4000度だったと言われています。多くの方が「水を下さい」「一口でいいから、水をごっすり飲ませて下さい」と水を求めながら天に召されていきました。家族や周りの人たちは、当時「重傷の人に水を飲ませてはいけない」と教わっていたため、「なんとか助けてあげたい」「この人を死なせたくない」という思いから、水を飲ませてあげたくても、飲ませてあげることができませんでした。原子爆弾が炸裂したことによる熱線の被害は、水を一口飲ませたからと言って、助かる助からないかというものではありませんでした。それだけ、核の被害は甚大だったのです。

重傷を負った家族が天に召された後、残された家族や周りの人は、「あのとき、一口だけでも飲ませてあげれば良かった」という後悔の念を抱き続けてきました。

そのため、広島では、あの日、天に召された被爆者の方々に「どうぞ水を飲んで下さい」という思いを込めて、慰霊式や8・6の平和式典、折々に慰霊碑に、「献水」が行われています。

そこで、この「8・6キリスト者平和の祈り」においても、「献水」を行います。

どうぞ、心をあわせて下さい。

「在広韓国人・朝鮮人被爆者救援会」について

1967年3月26日、復活主日に鈴木正久議長名で「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」（以後、「戦責告白」と記す）が発表されました。この戦責告白は、その後の平和運動の方向を決定する重大な告白となりました。

過去のキリスト教界が軍国主義による侵略戦争に協力、加担し賛美さえした罪を告白することなしに、戦後の平和への活動をするには許されないと告白したのです。

広島キリスト者はこのことを深刻に受け止め、戦責告白に基づく平和運動を推進することを決意したのです。その中で原爆孤老のための養護老人ホーム「清鈴園」建設が計画実施されることとなるのです。

西中国教区（広島、山口、島根）の他に「戦責告白」の実質化に取り組んだのが日本キリスト教団中部教区（富山、石川、福井、愛知、岐阜、三重）です。中部教区では1969年～1973年、愛知・岐阜・三重地区社会部共催で清鈴園建設募金運動に参加。1974年になって、中部教区社会部より代表が来広し、当時「原爆スラム」と呼ばれた地域を視察、金信煥牧師（在日大韓基督教会広島教会）から在韓被爆者の悲惨な状態を聞き、「戦責告白」の精神に立って支援したいという申し出を受け「広島キリスト者平和の会」のメンバーが中心となって「在広韓国人・朝鮮人被爆者救援会」が発足、実務を担当するために「現地5人委員会」が組織されたのです。以来、47年間、広島に在住の韓国人・朝鮮人被爆者の支援活動を続けています。

1974年以降、中部教区では「平和聖日」（8月第1主日）の献金を「在広韓国人・朝鮮人被爆者」の支援のために、と呼びかけて今年で47回目となります。これまでの募金の中心は中部教区ですが、賛同した教会、団体等の献金で被爆者支援を継続しています。



「平和への祈り」 詩：シャルル・ドルレアン 曲：フランシス・プーランク

平和のためにお祈りください、
優しき生母マリア様
天の女王様、世界のご主人様
あなたのお力添えにより
聖者と聖女様方もお祈りくださるようになしてください
そしてあなたの御子にその気高さをお求めください
御子イエスが民を見守り給うことを
御子の血で償おうと望んだ民のことを
すべてを破壊しつくす戦争をなくして下さいますことを
お祈りに^{あぐ}倦まれませぬよう
平和の祈りを、平和の祈りを
これこそが喜びの真の宝物なのですから

「第452番 汝に向かいて我は歌わん」 (Dir, dir, Jehova, will ich singen)

J. S. バッハ「シエメツリ歌曲集」より

主よ、私はあなたに向かって歌います
あなたのような神はどこにいますか？
私の歌をあなたに届けたいのです
あなたの精神力を私に与えてください
イエス・キリストの名もとに、私の歌であなたを喜ばせたいのです
私にお与えください、いと高き方
その優しさで、私の歌はきっと美しく歌われるでしょう
そして私は祈ります、私の精神と真にかけて
私の歌によって、あなたの心が高みに上げられるよう
より高いところへと詩篇を歌います



幟町国民学校青空教室と
広島流川教会礼拝堂(1946年)